

地域の輪につながる見守りと支援

本集市糸貫民生委員児童委員協議会

本集市は根尾、本巢、糸貫、真正地域からなる人口3万4,500人の市です。その中で、糸貫地域の人口は1万1,900人、そのうち65才以上人口は3,400人で、高齢化率は28.5%となっています。

現在、糸貫地域の上保地区から中野地区にかけて、「東海環状自動車道」の道路工事が進められており、完成時（2024年予定）には、企業誘致、農産物輸送、観光客の集客雇用などによる糸貫地域の活性化が期待されます。

糸貫民生委員児童委員協議会の活動

25自治会及び3小学校区（一色、席田、土貫野）から選任された民生委員22名（主任児童委員2名含む）で構成されています。

定例会は月1回、全員で「民生委員信条」を唱和し、「子ども」、「高齢者」、「障がい者」の部会からなる全体会議を行います。高齢化が進む中、どんな小さな困り事でも事例を多く出し合うなど、問題解決に向けた定例会としています。

また、主任児童委員が中心となり、園や小中学校と連携しながら子ども

たちの見守りをしています。活動は、糸貫民児協全体で行っており、児童の登下校、あいさつ、交通安全、急な体調変化などには特に気を配っています。児童からの「おはようございます」、「ただいま」の大きな声は清々しいもので、私たちの励みにもなっています。



▲糸貫民児協定例会



◀一色小学校登校あいさつ

このような活動を通して私たち民生委員は、市福祉敬愛課、市社会福祉協議会、地域包括支援センター、障がい者就労支援センター、学校などの関係機関へのつなぎ役として、重要な役割を担っています。

糸貫地域の特色ある取り組み

糸貫地域の高齢化率は年々上がっており、見守り訪問では様々な課題に直面します。特に独居高齢者で身寄りがない方、相談相手のいない方、また「自分は誰の助けももらわない」と支援を拒否される方には見守りが困難となりますが、助けが必要な方には親身になって相談に応じ、民生委員として関係機関へつなぐなど、解決につながるよう働きかけています。

こうした活動の一つとして「いきいき・サロン」があり、25自治会のうち18自治会で開催されています。社会福祉協議会、自治会の協力により、ボランティア及び民生委員で、毎月1回のテーマと知恵を出し合い、「今日は楽しかった、また来よう」と思っていただけのように、高齢者の交流の場づくりに努めています。

また、高砂町自治会は他自治会と比べ高齢化率が高く、最寄りのスーパーは1キロほど離れた場所にあり、車の運転ができない、身体が不自由などの事情により、買い物に不便を感じている高齢者が少なくありません。そこで、平成29年3月より半年

間、民生委員が市社会福祉協議会に協力し、買い物支援モデル事業を試験的に実施したところ、多くの方が利用されたため、同年10月より自治会の理解のもと、民生委員や地域ボランティアの協力を得て本格的に運行を始めました。

目や耳の悪い方への付き添いや、購入したものを玄関まで運ぶなど、少しでも利用者の負担を減らすことができるよう心がけており、利用者からは、「自転車で買い物へ行くことが難しくなったので助かっている」、「重いのに玄関までありがとう」と喜んでいただいています。



▲土貫野早野地区「サロン」



▲席田地区買い物支援